

# アートが まちと人に できること

パネリスト：

**大西一史** 熊本市長

**桜井 武** 熊本市現代美術館 館長

モデレーター：

**大澤寅雄** (株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室

日 時：

2018年9月9日(日) 14:00-15:30

場 所：

熊本市現代美術館ホームギャラリー

**参加無料** (当日直接会場へお越しください)

熊本市は「熊本城における市民参画型の文化財の修復と活用」及び「市民との協働を意識した熊本市現代美術館の運営」の二つの理由から、平成29年度文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を受けることとなりました。

熊本地震を経たその後の復興を考える上で、熊本城や熊本市現代美術館といった文化施設が担う役割や、熊本市の文化における未来について、大西一史熊本市長をお招きし、桜井武熊本市現代美術館館長とともに語っていただきます。

主 催：熊本市現代美術館(公益財団法人 熊本市美術文化振興財団)

助 成：企業メセナ協議会「GBFund 芸術・文化による災害復興支援ファンド」

問合せ：熊本市現代美術館 電話：096-278-7500 [www.camk.jp](http://www.camk.jp)

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3階



## ● パネリスト



**大西一史** おおにし・かずふみ  
熊本市長

1967年熊本市生まれ。日本大学文理学部心理学科卒業。九州大学大学院法学府公法・社会法学専攻修士課程修了。九州大学大学院法学府法政理論専攻博士後期課程単位修得退学。1992年日商岩井メカトロニクス(株)入社。1994年同社退職後、1994年内閣官房副長官秘書を経て、1997年熊本県議会議員初当選。5期県議会議員を務める。2014年熊本市長に初当選し、以降現職。平成28年4月に発生した熊本地震により、被災された方々の生活再建のために、全力で取り組んでいる。熊本地震から2年を経過した今、復興への歩みを確かなものにし、魅力と活力に満ちた「新しい熊本市」の実現を目指す。趣味は読書、音楽鑑賞、ドラム演奏などであり、今でも年に数回ライブを開催する。座右の銘は「至誠努力」。



**桜井 武** さくらい・たけし  
熊本市現代美術館 館長

1944年静岡県生まれ。慶應義塾大学仏文科卒業後、シカゴ・アート・インスティテュート留学。1971年よりブリティッシュ・カウンシル勤務。1991年、大英勲章MBE授与。ブリティッシュ・カウンシルのアート担当官として演劇・音楽や現代美術の展覧会など、多くの文化事業に携わり、現代美術を積極的に紹介した。退官後、同アドバイザー、慶應義塾大学大学院非常勤講師などを経て、2008年より熊本市現代美術館館長。主な著作に『英国美術の創造者たち』(形文社)、『ロンドンの美術館—王室コレクションから現代アートまで』(平凡社新書)。

## ● モデレーター



**大澤寅雄** おおさわ・とらお  
(株)ニッセイ基礎研究所  
芸術文化プロジェクト室

(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事、NPO法人STスポット横浜監事、九州大学ソーシャルアートラボ・アドバイザー。2003年文化庁新進芸術家海外留学制度により、アメリカ・シアトル近郊で劇場運営の研修を行う。帰国後、NPO法人STスポット横浜の理事および事務局長を経て現職。共著『これからのアートマネジメント"ソーシャル・シェア"への道』『文化からの復興市民と震災といわきアリオス』『文化政策の現在3 文化政策の展望』『ソーシャルアートラボ 地域と社会をひらく』。

## 地震のあとで After the Earthquake

### 熊本市現代美術館 熊本地震記録集 — 美術館を、美術館として開ける。—

2016年4月14日、16日に熊本・大分を襲った大地震は、熊本市民の生活のみならず、熊本市現代美術館のあり方そのものを根本から問い直すきっかけとなった出来事でした。本記録集は、熊本地震2周年のメモリアル事業として、地域における美術館の活動について、職員が考え、行動した内容をまとめたものです。復興活動の記録のほか、石川直樹、川内倫子、宮井正樹らが撮った熊本の写真シリーズを含めることで、より多くの方々に、熊本という土地の記録と記憶を伝えていくことを目的としています。



熊本市現代美術館で  
閲覧可能なほか、ホームページ  
camk.jpで全文を公開予定。